

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこピア浄法寺		
所在地	〒028-6911 岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地 (電話) 0195-39-1818		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年2月27日

【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.5	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	無	その他実費負担 円
敷金	有(円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 950 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2			名
要介護3	4 名	要介護4			名
要介護5		要支援2			名
年齢	平均 79.7 歳	最低	72 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浄法寺診療所(緊急搬送病院・二戸病院・一戸病院)
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームにこピア浄法寺は、二戸市の西に位置し、八戸高速道浄法寺ICから車で15分、JRバス駅から10分ほどの山間部の廃校を利用した事業所である。浄法寺町は、漆工芸品の里として、また葉タバコ生産日本一、瀬戸内寂聴尼僧が住持職である天台寺は全国的に知られている。1階には同法人の通所介護事業所があり、2階がグループホームにこピア浄法寺である。
明るくゆとりある廊下やリビングスペース、また会議室等も設置されている。開設して2年目を迎え、職員は、ケアプランの見直し(評価)を繰り返しながら、一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向等の把握に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である「身体拘束をしないケア」については、運営規程第3条(4)「身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為は行わない」を職員はよく理解しており、ミーティング等を通じて学びかつケアに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、ホーム長がとりまとめ、記述したが、今回の外部評価を見直しの機会として、今後全職員で取り組むこととしている。また、評価結果について運営推進会議に報告し、意見や提案を頂くこととしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの活動報告や利用者の状況報告のほか、出席者から行事開催の情報提供をいただいたことにより町内交流会等に参加するきっかけとなり、また、ホーム主催のイベントにも地域住民の多くの参加があり、地域交流のつながりとなっている。なお次回は、外部評価の結果報告と、ホームに対する地域支援のあり方について意見交換等を行うこととしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常の暮らし振りや活動は月1回の広報誌「にこ浄報」でお知らせし来訪時には健康状態や、金銭管理について報告している。なお、健康面で緊急を要するときは電話で連絡をしている。家族の意見・要望等については秋まつりなどの行事開催時の交流の中で要望や意見を聴く努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	元校庭だったスペースは、地域行事や老人会のゲートボール、婦人会のスポレク、子供の遊びとして利用され、利用者と地域との交流の唯一の機会となっている。現在、近隣住民と事業所との共同耕作地を計画し、日常的な交流の場となるような検討しているところである。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係性を重視し、事業所独自の理念をつくりあげている。左欄に掲げる理念について職員全員が確認できるよう廊下や台所に掲示し、常に意識づけしながら実践に活かすようにしている。		[理念] ①安全で楽しく、快適な生活をお届けします。②入居者のプライバシーを守り、家族と入居者の尊厳を守ります。③その人らしく暮らすということを大切にします。④地域と施設、入居者と家族とのきずなを大切にします。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時には理念を唱和し確認し合うとともに、ミーティングや会議・行事等の際、或いは計画策定時に理念について掘り下げて職員間で話し合い、実践的なケアで生かすよう意志統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	元校庭だったスペースは、地域行事や老人会のゲートボール、婦人会のスポレク、子供の遊びとして利用され、利用者と地域との交流の唯一の機会となっている。現在、近隣住民と事業所との共同耕作地を計画し、日常的な交流の場となるよう検討しているところである。	○	町内会に加入し、地域行事にも参加するなど、住民の一員としての「つきあい」ができることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、ホーム長がとりまとめ、記述したが、今回の外部評価を見直しの機会として、今後全職員で取り組むこととしている。また、評価結果について運営推進会議に報告し、意見や提案を頂くこととしている。	○	「評価のないところに改善はない」といわれるように、今回の評価を契機に、具体的な課題や改善点を明らかにするためスタッフ全員による取り組みに期待をしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動報告や利用者の状況報告のほか、出席者から行事開催等の情報提供をいただいたことにより町内交流会等に参加するきっかけとなっている。また、ホーム主催のイベントにも地域住民の多くの参加があり、地域交流のつながりとなっている。次回は、外部評価の結果報告と、ホームに対する地域支援のあり方について意見交換等を行うこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが主催する月1回の研修会に必要に応じて参加したり、行政機関等関係機関には直接足を運び話し合いをするなど指導をいただく機会を設けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者は、二戸広域圏(4市町村)広範にわたり、家族も頻繁に訪れる機会が少ないことから、日常の暮らし振りや活動は月1回の広報「にこ浄報」でお知らせしている。また、時々の来訪時には健康状態等を報告し、金銭の出し入れについて確認いただいている。なお、健康面で緊急を要するときは電話で連絡を取り対応の在り方について理解をいただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の要望・意見等については意見箱を設置したり、家族の面接を利用し出来るだけお話を聞くようにしている。更に秋まつりなどの行事開催時の交流の中で要望や意見を聴く努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームとしては職員の定着を最優先しているが、異動・離職を余儀なくされた場合には馴染み関係が構築されるまで、経験豊富な職員を配置し、ダメージを少なくするように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数に応じた段階的な研修計画に基づいて実施している。また、資格取得希望者については勉強会の機会を設けるなどの支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催する認知症研修会への参加、同業者と交流、関連法人との交換研修等に取り組みながら、サービスの向上につなげる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人・家族が来訪し、他の利用者や職員、ホームの雰囲気等に馴染めるかなどについて、時間をかけて相談したり、見学をしていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	たくわん漬け、畑作業の手順、調理、洗濯物干し・たたみ方などを利用者と職員と一緒に、教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら、共に支え合う関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の暮らしの中における言葉や表情を把握・記録にとめながら、また職員間でよく話し合い、本人の希望や意向を活かすように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の希望や本人の意向を活かすため話し合いを行うとともに、アセスメント情報を基に職員間で意見交換を行いながら利用者を支える計画をつくっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	アセスメントやモニタリングを基に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行って。また利用者に状態変化が生じた場合には、本人、家族等と話し合い、実情に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望や状況に応じて、散歩・ドライブ・買い物、通院支援などを行っている。併設されているデイサービスの足浴、マッサージ機などの機器活用をしながら、利用者同士の交流にもつながるような柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医により受診しており、必要に応じて職員による通院支援を行っている。1ヶ月に1回協力病院である浄法寺診療所による定期受診を実施し、その結果を通院録に記録し、家族へも報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、入所時に説明している。マニュアルも作成され、職員学習会も行われている。事例はないが、その時点を考慮しながら、変化に備えた取り組みを更に検討することとしている。	○	看取りに適切に対応するためには、家族の希望や医師との情報の共有が非常に大切なことと考えられることから、その対応の有り方について日常的な学習を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失禁時のプライバシー(羞恥心)には特に配慮している。さりげなく・他の利用者に気付かれないように・すばやく対応し処理するように努めている。ケースファイルの置き場所などにも気遣いしながら徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、利用者一人ひとりの希望やペースを大切に、入浴なども本人の希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を聞いて献立を立てたり、一人ひとりの好みによる量の盛り付けや利用者自身でご飯をよそったりと、利用者の力を活かしながら、職員と利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週6日の入浴日としながら、その日の体調や希望に併せて時間をずらしたり、仲のよい利用者同士で入浴するなど柔軟な支援をしている。入浴後の状態チェックもしっかりなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各居室には箒・ちり取り、廊下には掃除機を備え付け、本人の気持ちや力を活かす場づくりとしている。また、裁縫の得意な方には、雑巾縫いをお願いするなどしながら、本人の楽しみや意欲を引き出し、張り合いや喜びのある生活を支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換や気晴らし支援として、周辺散策での野花摘み、胡桃拾い、また一人ひとりの希望に添った散歩や買い物、ゴミ捨てなど、戸外へ出かけながら、地域の人々との交流や気分転換の機会としている。また個人的に外へ出かける利用者についても、見守りながら本人にとって気持ちの良い外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はしていないが、ホームは旧学校の2階に設置しているため、階段の上下降に危険が伴うので、2階から1階への出入りの動きが確認できるようにドアに音の出る装置を設置している。なお、職員は利用者一人ひとりの表情等を良く把握し動きに気を付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災ずきんをまといながら、ディサービスと合同の訓練を年2回実施しているが、階段を使っての移動については、利用者の心身を考慮した対応のあり方が大きな課題として残った。	○	避難訓練は地域住民の協力が欠かせないものであり、また夜間の避難体制は最大の課題となりましょう。地域住民の協力と夜間を想定した避難訓練の企画立案が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食状態や水分補給量の過不足、栄養のバランス等を記録し気を付けている。食事については、量が多いなどの意見もあり、早急に法人内の栄養士に相談しながら考えていきたいとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広いスペースには、ゆっくりくつろげる量の小上がりもあり、大型テレビを楽しめるようになっている。クリスマスの間近にし、壁面には利用者と共に制作されたツリーなどが飾られ、季節感を演出している。また共有空間の窓越しに映る風情は、季節感や生活感を味わえるなど、ゆったりと時間を過ごせる環境にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、備え付けのベッドやクローゼット、小引き出しなどがあり、広い窓からは四季折々の変化が楽しむことができる。利用者の中には、家族写真を飾ったり、使い慣れた敷物などで、本人が居心地よく過ごされるよう工夫されている。		